



## 世界経済 — 躍進する新興市場 —

### ■注目される新興経済

世界経済のパワーバランスのシフトや、ビジネス活動上における新興市場の重要性の高まりは、顕著である。2000年代に、ジム・オニール氏がゴールドマンサックスのレポートで”BRICs※1”という言葉を用いて以来、新興国市場が注目されるようになった。その後も、新興国市場を表した”Next 11※2”や”VISTA※3”、”CIVETS※4”などの類義語がいくつも紹介されるほど、注目を集めた。

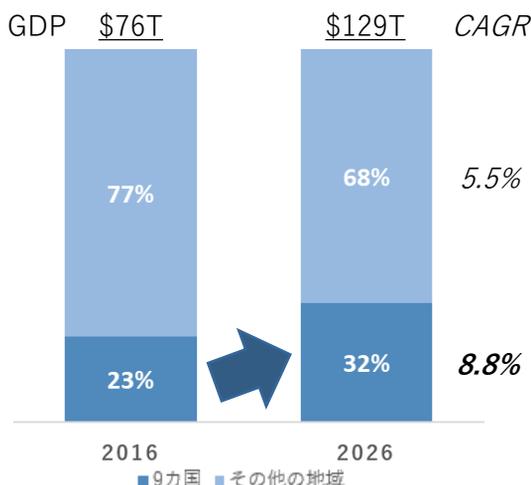
<※1> BRICs: ブラジル、ロシア、インド、中国の総称。

<※2> Next 11: バングラデシュ、エジプト、インドネシア、イラン、ベトナム、韓国、メキシコ、ナイジェリア、パキスタン、フィリピン、トルコの総称。

<※3> VISTA: ベトナム、インドネシア、南アフリカ、トルコ、アルゼンチン

<※4> CIVETS: コロンビア、インドネシア、ベトナム、エジプト、トルコ、南アフリカ

### 【世界のGDPに占める注目9カ国の割合】



### ■主要新興経済が世界のGDPに占める割合

実際、2000年代以降、新興国経済は世界のGDPの大半を占めるまでに成長しており、世界経済やビジネス市場の成長を牽引する中心となっている。現実的な投資先としての新興市場は、立地条件、地域性や文化性、外交関係など様々な要素項目における親和性やリスクから評価されるが、日本においては、中国、インドネシア、フィリピン、タイ、ベトナム、インド、トルコ、メキシコ、ブラジルを注目市場としている企業が多いようだ。それら9カ国の経済規模が世界のGDPに占める割合を見た場合、2016年は23%であったものが、2026年には32%に拡大すると予想されている。

出典:IMF World Economic Outlook、SVPジャパン作成

[https://www.imf.org/external/datamapper/NGDP\\_RPCH@WEO/OEMDC/ADVEC/WEOWORLD](https://www.imf.org/external/datamapper/NGDP_RPCH@WEO/OEMDC/ADVEC/WEOWORLD)

### ■2036年の国別GDPランキング・トップ10

また、英国シンクタンク・Cebr社は、2036年の国別GDPランキングに関するレポートを発表しているが、その中で、現在トップの米国を抜いて中国が1位に、インドが日本やドイツを上回って3位、インドネシアは8位にジャンプアップすると予想している。9位のブラジルと10位のロシアを含めると、上位10カ国中の半数を、現時点では新興国と呼ばれている国々が占めることになる。

出典:Cebr、SVPジャパン作成 <https://cebr.com>

### 【2036年 国別GDPランキング】

国	GDPランキング		ランク変動
	2016	2036	
中国	2	1	↑
アメリカ	1	2	↓
インド	7	3	↑
ドイツ	4	4	—
日本	3	5	↓
イギリス	5	6	↓
フランス	6	7	↓
インドネシア	16	8	↑
ブラジル	9	9	—
ロシア	12	10	↑

## ■新興市場の成長シナリオ

一般的な新興国市場の経済発展シナリオは以下の通りである。

1. 安い労働力の確保を目的に海外から投資が集まり、製造面から経済成長が始まる。
2. 経済成長に伴い、個人所得へ還元され、富裕層のみならず、多くの中間層を生む。
3. 中間富裕層に牽引され、個人消費が増加する。
4. ライフスタイルや消費活動が洗練されることで、より魅力的な消費市場へ発展する。

また、日本を含む先進国で高齢化が進む中、多くの新興国では、若年層を中心とした人口増が見込まれており、これまでにない多くの労働力と消費市場が生まれることも、それらの国々の成長を後押ししている。

出典:国立社会保障・人口問題研究所、SVPジャパン作成  
[https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/P\\_Detail2021.asp?fname=T02-14.htm](https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/P_Detail2021.asp?fname=T02-14.htm)

### 【主要新興国の年齢（3区分）別人口割合】

国	(年)	人口割合 (%)		
		0~14歳	15~64歳	65歳以上
日本	(2019)	12.1	59.5	28.4
ブラジル	(2018)	21.3	69.4	9.2
中国	(2011)	16.5	74.4	9.1
インド	(2011)	30.9	63.6	5.5
インドネシア	(2019)	24.8	68.7	6.5
フィリピン	(2019)	30.6	63.9	5.4
ベトナム	(2019)	24.3	68.0	7.7

## ■都市化と重要都市市場

新興国において、経済の発展とともに起こるのが都市化である。当然ながら、経済は、人口が多くインフラが整った都市部から発展することになり、その機会を求めて、人口の多い農村部から都市部へ、大規模な人口移動が起こる。中核都市だけでは受け入れが難しいほどの人口流入であるため、その周辺地域にも中堅・小規模の新しい都市が出現することになる。

2035年の世界の都市をGDPで比較した場合、ニューヨークや東京などに続いて、上海など中国の4つのメガシティがトップ10に入っている。また、GDPの成長率では、トップのバンガロール(インド)からダッカ(バングラデシュ)、ムンバイ(インド)がトップ3であるが、メガシティの深センと上海も、引き続き高い成長が予想される。

### 【2035年 都市別GDPランキング】

順位	都市	国	GDP
1	ニューヨーク	アメリカ	\$2.5T
2	東京	日本	\$1.9T
3	ロサンゼルス	アメリカ	\$1.5T
4	ロンドン	イギリス	\$1.3T
➔ 5	上海	中国	\$1.3T
➔ 6	北京	中国	\$1.1T
7	パリ	フランス	\$1.1T
➔ 8	シカゴ	アメリカ	\$1.0T
➔ 9	広州	中国	\$0.9T
➔ 10	深セン	中国	\$0.9T

### 【2035年 都市別GDP年次成長率ランキング】

順位	都市	国	成長率
1	バンガロール	インド	8.5%
2	ダッカ	バングラデシュ	7.6%
3	ムンバイ	インド	6.6%
➔ 4	デリー	インド	6.5%
5	深セン	中国	5.3%
6	ジャカルタ	インドネシア	5.2%
7	マニラ	フィリピン	5.2%
8	天津	中国	5.1%
➔ 9	上海	中国	5.0%
10	重慶	中国	4.9%

出典:World Economic Forum、SVPジャパン作成

<https://www.weforum.org/agenda/2019/10/cities-in-2035?fbclid=IwAR2t7QZ7DnQOxFfjFew42dIPKr6yJ6jBygdHn PN0T9IA1WXYW3njOyTRCI>

次号では、新興国市場を攻める上での難しさや戦略的な捉え方について考察する。

## ■おわりに

SVPジャパンでは、会員様向けサービスを通じて、日本のみならず、新興国を含む世界各国の経済指標や市場データ、事業環境、企業情報などをカスタマイズされた報告書にてご提供させていただいております。プロジェクトリサーチでは、ヒアリング調査を通じた一次情報の収集・分析も行っております。是非、ご活用ください。



s'il vous plaît  
**SVP JAPAN**  
株式会社SVPジャパン

[お問い合わせ・資料請求はこちら](#)

まずはお気軽にお問い合わせください。

TEL : 03-3249-0771

2営業日以内に調査結果をご報告

**クイックリサーチ**

[詳しくはこちら](#)

カスタムメイドのリサーチサービス

**プロジェクトリサーチ**

[詳しくはこちら](#)

